

関西のHIV支援サービス

検査や予防が重要ってことはわかってる。
でももしHIVに感染してることがわかったらどうなるの?
そんな不安を感じることもあるよね。
今回はそんなどきに役立ついろんなサービスについて、
サポートプロジェクト関西の岳中美江さんにお話をうかがいました。
HIV／エイズの支援サービスについてちょっと知っておきましょ。

サポートプロジェクト関西って?

—さっそくですがどんなサービスなんですか?
関西で生活するHIV陽性とわかった人が日常生活や、
医療のことなどについていつでも相談でき、安心してサポートを
受けられる環境を作る事を目的に活動しています。
現在行っている活動は右の3つです。

posp 電話相談

電話相談って どんなかんじ?



—「電話相談」と聞くと、なんだか敷居が高いような気がするんですが…。

岳中：電話相談は最初の入口なんです。会話をしながら本人が抱えている問題や課題を一緒に整理し、利用可能なリソース（通院先の病院や地域の他サービスなど）を最大限に活かして解決できるようにサポートします。必要なサービスにきちんとつながるサポートラインになればいいなと考えています。

—対面ではなく、電話相談にしたのは理由があるんですか?

岳中：利用される方が少しでも利用しやすいように、と考えて電話相談にしました。対面相談と違って顔もさないので、匿名性がより高いと思います。予約したり出向いたりする手間もなく相談が利用できることも大きなメリットです。HIV陽性とわかった人の相談が中心ですが、どこに相談していくかわからないという方（たとえば陽性者のパートナー、確認検査結果待ちの方）の相談もお受けしています。

ひよっこ クラブ

ポジティブとわかったばかりの 人へのサービス



—HIVポジティブだとわかったばかりの人へのサポートがあるんですね?

岳中：はい。ポジティブとわかつて間もない頃はわからない事も多い、知識の質と量もさまざまです。「ひよっこクラブ」では、わかつて間もないという同じ立場の人達が集まってそれぞれの想いを話したり聞いたりします。ポジティブの人も含めた2人の進行役がやりとりのお手伝いをします。

—具体的にどういった事を行うんですか?

岳中：一ヶ月半の間に隔離で全3回集まります。2回目には専門のドクターが来て、基本的な医療情報について教えてもらうことができ、参加者から質問ができる時間もあります。これから長い付き合いとなる医療者との付き合いから（どこまで聞いていいのか？どこまで自分から提案できるのか、など）を考える機会になるかもしれません。堅くならず、自然な感じでドクターとのやりとりが体験できると思います。

—病院って縁遠くて近寄りがたい場所なので、病院以外の場所で専門のドクターとお話しができるってかなりすごい事ですね。

岳中：はい。安心できる場所で情報や体験を共有することを経て、これからもより自分らしく生活することにつながるスタートであることを目指しているので、このプログラムがよい通過点になればいいなと願っています。

カンファレンス

支援する側への サポート



電話相談

内容：ポジティブとわかつて間もない人のためのミーティング（1回2時間～2時間半を4～6人の少人数で実施。）
対象：HIV陽性の人。どこに相談したらいつかならない人
時間：毎週水曜日の19～21時（祝日・年末年始は休み）
電話番号：06-6358-0638

—支援をする人達へのサポートもあるんですね?

岳中：はい。関西地域でHIV陽性者に関わる様々な立場の人（地域のNPOや、行政、保健所、医療者等）のパワーアップを目指して行っている会合でカンファレンスと言います。会合では情報やテーマを共有し、職種や支援を提供する場の枠を超えた横のネットワークができることがあります。

—サービスを提供する側の支援。それで支援を受ける側の人たちにもメリットがあることですよね。

岳中：感染しても社会で生活している1人なわけですよ。普段の生活の中にいつでも相談ができる、安心してサポートを受けられる環境があることが大事です。すこしてもその環境が充実するように、他団体や医療機関、保健所等の連携を大事にしながら日々活動をしています。

ひよっこクラブ
HIV陽性とわかった人のための
電話相談

内容：ポジティブとわかつて間もない人のためのミーティング（1回2時間～2時間半を4～6人の少人数で実施。）
対象：HIV陽性の人。どこに相談したらいつかならない人
時間：毎週水曜日の19～21時（祝日・年末年始は休み）
お問い合わせ：hiyokko@posp.jp
tel:050-3123-4608（受付：月～木曜 13:00～17:00）

>>>TEACH 気になるけど、誰に聞いたらいいかわからない。知りたいけど、どうやって調べたらいいのかわからない。そんなみんなの疑問に、経験豊富な兄貴（時にはアネキ）が答えるコーナー。



どうなる?? エイズの治療支援制度 !!

—HIVに感染するとどんなサポートがうけられるのですか？
岡本：まずは、身体障害者福祉法という法律があつて、簡単に言うと、障害を持つ人が安心して社会で暮らす事が出来るように障害を持つ人に対してサポートをしようというものです。例えばエイズの後遺症として目が見えなくなった場合や慢性的に身体がしづかたりする場合も対象となります。薬害エイズ事件をきっかけに、薬害で感染した人達だけでなくHIVウイルスを持つ全ての人が制度を利用できるようになっていました。

—HIVに感染しても薬を飲んだら感染していない人と同様に生活できるという話もちらりとお聞きしますが・・・。

岡本：いえいえ。少なからずハンデを持った事になると思います。例えば定期的に通院をしないといけない=会社を休む必要が出てくる。そうなるとより働ける人を雇用する会社の場合は、

1つのハンディを抱える事になりますね。ですが、最近、障害者雇用促進法が改訂されて、企業の中に障害を持つ人が働いている事が普通になつてきました。また、HIV治療には自立支援医療制度（所得に応じて、その月の医療費の負担額の上限が決まっている）があります。治療が高額で受けられない人も安心して治療を受けられる）があるので、医療費についてもそういうサポートがあります。

—そういう障害者の制度の問題点は何でしょうか？

岡本：制度を利用するにはほとんどの場合で障害者手帳を使う（見せる）事になりますから、公共機関等のサービスを受ける場合も、く友達と一緒にいるときは（自分が感染しているという事を知られたくないから）制度を使わない

—政治まで行くと、スケールが大きすぎて手に貢えないような気がするんですけど。

岡本：でも、そういう予算を決めるのは政治家で、その政治家を決めるのは国民なんですよ。独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター ソーシャルワーカー 岡本 学 選挙に行く事は治療支援の制度を支えることに

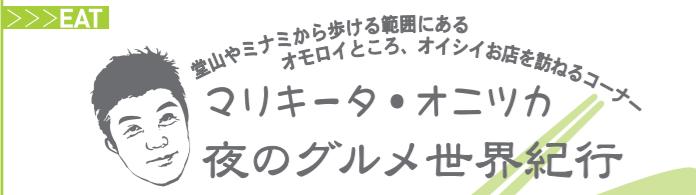
いますね。もちろん、全然気にしない人もいますけど。

—エイズの治療支援制度は、今後どのようにしていくと考えますか？

岡本：一度作られた制度がなくなる可能性は低いと思います。だけど一方で自己負担額は上がっています。日本の医療が悪化して、予算規模の見直しがされると、今までどおりにはエイズの治療支援のためのお金が回らなくなるかも知れない。今までうけられたサービスが受けられなくなる可能性もあります。一人一人が政治にどう関わるべきを考えることは、HIVの支援制度を考えるにあたってとても重要だと思います。

—政治まで行くと、スケールが大きすぎて手に貢えないような気がするんですけど。

岡本：でも、そういう予算を決めるのは政治家で、その政治家を決めるのは国民なんですよ。独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター ソーシャルワーカー 岡本 学 選挙に行く事は治療支援の制度を支えることに



先月お休みをいただいたので、そのあいだにあの鶴橋のコリアンタウンをお訪ねしました。の、ウン十年ぶりに、ひょっとしてすっかりモダンになってたり、シャッター通りになってたらどうしよう？なんて不安は駅の改札（近鉄・JR共用）を出たとたん、消し飛んでしまった。戦後まもなくの閑散の匂いがブンブン、焼肉やキムチの匂いもブンブン。目の覚めるような色合いのチャマチャギのお店群も、チヂミの露店群も健在。早速、改札を出てすぐ右手の路地にある食堂「順天（スンチョン）」に飛び込んで激辛ケジャン（渡り蟹のキムチ）やアヒル貝をマッコリで流し込み、近鉄の高架を南に抜けたところを見つけた「釜山家（ブサンチ）」で餃子が堪能！オバチャンがひとりでやっているお店なのですが、ナムル、マッコリともども上品なお味なのです。食事を大にすると半島の人たちの文化に圧倒され、身動きできにくらい満腹なったら、今度は珈琲ってことで、千日前通りの角にある昭和な喫茶店「シュン」に飛び込み、一杯、思い返せば、よく目にし、味わったあらゆるもののが昭和どころか、戦後閑市の匂からちとも変わってないものばかり。「いま」を感じたのはたったひとつ、高架下でそれ違った（で、思わず振り返った）、真冬なのに真っ白なTシャツ一枚で胸の筋肉を揺らせながら（ああっ…）歩いている屈強な若者の両耳に燐然と輝くビアス…！？

>>>DICTIONARY

STIミニ辞典 ウイルス・病気編

梅毒 B型肝炎 HIV 尖形コンゴローム
アメバ 赤痢 クラミジア 性器ヘルペス

その参考 HIV

MASH大阪が調べた結果では、大阪のゲイ・バイセクシュアル男性で、HIVに感染している人は大雑把に言って100人に2～3人。HIV感染症は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）と呼ばれるウイルスに感染している状態を言います。HIVに感染すると完全に体内から除去することは出来ませんが、早期に発見・治療することで、いろいろな症状が起こることをくいとめることができます。

HIVに感染すると、2週間前後で風邪のような症状が出る場合がありますが、ほとんどの場合は無症状で何年も経過します。治療をせずに放っておくと、身体の抵抗力が段々と低下し、健康であれば何でもない細菌やウイルス、微生物などによって、感染症や癌などにかかりやすく、また治りにくくなります。HIVによって免疫力が弱められ、いくつつか特定の症状が現れてきた状態をAIDS（エイズ：後天性免疫不全症候群）と言います。

現在HIVを根本的に治療する方法はありませんが、薬によって体内のウイルスの増殖を抑え、または遅らせるなどで、重症化やエイズの発症をコントロールすることが出来ます。服薬の仕方が複雑、薬の副作用、治療費や薬代が高額、などの問題もありますが、様々な医療や社会福祉資源のサポートを受けることができます。

HIVは主にHIVに感染しているヒトの精液、血液、先走り液、膣分泌液などの体液と、直腸（ケゾの中）、尿道、口の中、喉などの粘膜や傷口が接触した場合に感染する可能性があります。そのため、アルセキスをする時にはコードームを使い、精液を口で受けないと予防することができます。HIVに感染しているかどうかは、検査を受けることで分かりません。また、検査の結果が正しく出るまで、感染してから8～12週間かかるので注意が必要です。検査についての情報は、裏面のINFORMATIONをチェックするか、http://www.hivkensa.com/を参考にして下さい。

他の性感染症や症状などを知りたいときは → <http://safersex.jp/>

>>>TOPIC

Sexual Health Information 知っとこ！

セックスライフと健康をめぐるホットな情報

今日のテーマは

「大阪のエイズエイズ動向委員会2009年第3四半期の報告から」

厚生労働省エイズ動向委員会は2009年末に、2009年第3四半期（6月末～9月）のエイズ発生動向を発表しました。エイズ発生動向は一年を4回に分けて発表されます。今回はその3回目でした。大阪の状況はどうなっているのでしょうか。

2009年第2四半期（4月～6月）と第3四半期（7月～9月）の新規HIV感染報告数を見てみると、東京都がそれぞれ「7人」「9人」、愛知県が「12人」「16人」と増加しているのに対し、大阪府では「43人」「35人」と若干減少している様子がわかります。発生した後に感染が判明する「エイズ患者数」も同様の傾向です。

このような数字となった背景として、

新規のHIV感染が小康状態になっている
HIV抗体検査受検者数の減少など、何らかの要因が影響している

などの可能性が考えられます。今回の動向委員会報告では

「HIV抗体検査受検者数が大幅に減少している」という指摘もあります。

「HIVに感染している場合、検査を受けていないので、それに気付かない人が増えている」可能性は否めません。日本のHIV感染報告はそのほとんどが「男性同性間のセックス」による感染です。大阪でHIV／エイズがどのような状況にあるのか、様々なデータを複合的に検討する必要があります。



「SaL+」は、MASH大阪が定期的に発行するコミュニティペーパーです。
SEX and LIFEの頭文字を取って、それに少し付け加えて「+」
健常なセックスライフに役に立つ情報や、街の情報を発信していくければと思っています。お店やショップで見かけたら、ぜひ手に取ってみて下さいね !!

□編集後記 □□□□□□□□

韓国に詳しい友人が言いました、「ソウルの南大門市場に行ったとき、これで鶴橋のコリアンタウンを巨大化しただけじゃんって思った」って。でも昭和な喫茶店だけはあちらにはないはず、って妙にこだわる自分がオカシイ(笑)。

いびき防止用の鼻につけるテープを買ってみました。これすごいんです。付けた瞬間、呼吸がしやすくなつて、超・快・適！今までどうやって呼吸してたっけ？って思えるくらいにスッパラしかったです。皆様も是非、試してくださいまし☆

仕事の関係で先週は名古屋、東京、群馬に滞在。そしてこの編集後記は別府で書いています。さらに来週は滋賀と金沢に出演。旅芸人のような放浪生活に欠かせないのが群馬の悔しきユーハの葉巻。ほんと素晴らしい組み合わせなんです。

友人が自殺しました。彼を亡くしてから、本当に色々な思いや考えをグルグル巡らせていましたが、まだ彼の死を消化できていません。普通に仕事をしたり、彼のことを知らない人と笑ったりしていますが、急に何かも投げ出しました。今、願うことは、どうかみんな死なずに、楽しむ暮らしをほしい。そればかりです。

SaL+ 編集部：戸田貴希 山田創平 後藤大輔
ご意見・ご要望・ご叱責などありましたら、FAXまたはEメールにてMASH大阪事務局（）までお寄せください。

MA+HO+AKA
〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 龍ビル4階
TEL/FAX 06-6361-9300
office@mash-osaka.com

平成21年度厚生労働省エイズ対策研究事業「男性同性間におけるHIV感染対策とその介入効果に関する研究」